

02  
February

# RESULTS JAPAN ANNUAL ACTIVITY REPORT



平成31年度  
事業報告書

日本リザルツ 令和2年2月21日作成

2019年02月01日

## 別所大使との朝食懇談会

本日午前8時から9時30分まで、ホテルルポール麹町において、日本国際交流センター主催の朝食懇談会「国連総会結核ハイレベル会合」の学びと展望－UHCハイレベル会合の政治宣言をより強固なものにするために－が開かれ、代表の白須が出席しました。

この懇談会は、昨年9月に初めて開催された国連総会結核ハイレベル会合を振り返るとともに、結核根絶の気運をさらに高め、今年開催される国連UHCハイレベル会合へどうつなげるかを話し合うため実施されました。ゲストはなんと、国連総会結核ハイレベル会合において共同議長を務めた別所浩郎国連日本政府代表部大使です。

会議では、白須が発言の機会を頂戴し、2点お話をさせていただきました。

1つ目は、結核、エイズ、ポリオなどの罹患をザンビアで初めて告白し、安倍首相にもお会いした故ウィンストン・ズル氏のことです。白須は、「結核根絶に向けて世界的に機運が高まっていることを、きっとズル氏は天国で喜んでいるでしょう」と、ズル氏の想いを代弁しました。

2つ目は、本日いらっしゃった別所大使についてです。それまでは外務省の役人はNGOの話に耳を傾けてさえくれませんでした。しかし、別所大使が草の根の意見の重要性に気づかれ、TICAD IVの際に外務省の役人として初めてNGOと意見交換をしてくださったそうです。

結核根絶への活動を次につなげて、気運を促進させてゆく取組みは一筋縄ではいかないと思います。迷ったとき、苦しいときは初心に立ち返ってみることもいいかも知れないと感じました。

## 事業報告書とGGG+フォーラム東京2018の議事録

ボランティアさんや皆様にご協力いただき、日本リザルツの理事会・総会に使用する2018年の事業報告書12冊と、昨年12月3日に開催したGGG+フォーラム東京2018の議事録日本語版の完成になんとか漕ぎ着けました。

デザインに携わってくださった木村様、島田様、印刷業者の



北島様、そしてチェック作業をしてくださった門井さん、  
畑野さん、坂崎さん、本当にありがとうございました。  
なお、日本リザルツの総会を次の通り開催します。  
参加自由ですので、どうぞご参加ください。



日時： 2月8日（金）16:00~17:00

場所： 日本リザルツ事務所 千代田区霞が関3-6-14  
三久ビル501

2019年02月02日

---

## 冬は「鍋」でも楽しんで 風邪を吹き飛ばしましょう

筆者は毎日の業務として情報収集作業をしています。情報源は主要紙の他にも専門誌や雑誌も気を配っています。そこで、2月になり益々寒い日が続きますが、寒さを吹き飛ばして元気が出そうな記事を見つけました。食の情報誌「オレンジページ」です。これは知る人ぞ知るといふ食の専門誌なのです。暮らしに「おいしい」と「ワクワク」ということを目指しています。

1月号の特集は「冬は毎日鍋がいい！」です。その中で見つけた記事が「〇〇電機ジャー炊飯器『本炭釜KAMADO』」でした。ササニシキなどの銘柄米を炊き分けて、それぞれのコメの特性を出すというスグレモノです。〇〇電機の取り組みは、コメの生産地まで遡ります。日本有数のコメどころのある宮城県の水田を借り受け、「〇〇電機お米栽培プロジェクト」という米の生産事業に進出し、稲刈り体験とジャーで炊いたコメで銘柄米の味を楽しむというものですが、参加した子どもたちも稲刈りと炊きたての米を食べるという体験をします。食に関する教育、若者の米の消費拡大と健康、それと電機メーカーの農業生産進出という多様な目的を持つ事業です。企業がこれまで出遅れていた農業生産分野に進出し、企業のイノベーション力を活かした取り組みが細やかながら始まっています。

こうした企業のイノベーション力を生かす動きを機敏にとらえてリザルツはケニアでの事業にも取り組みます。

今日は、宮城で米生産事業とケニアの取り組みまでを考える記事になりました。

皆さん、寒い冬はまだまだ続きますが、毎日「鍋」でも楽しんで風邪を吹き飛ばしましょう。



2019 年 02 月 03 日

---

## 英語マイスターに弟子入り

皆様のご協力もあり、ケニアの結核抑止プロジェクトの最終年度がいよいよ始まりしました。新しい現地責任者の畑野さんも無事ケニアに到着。月曜日から本格的に活動が開始します。

その畑野さんは自称！？語学マニアということですが、英語の試験もほぼパーフェクト、ベラベラの秀才です。英語はパッションと気合で乗り切ってきた筆者も英語の魔法使いになりたい！ということで、弟子入りすることになりました。

本日、先生から教わったのは以下の点です。

- ー 全部日本語のニュアンスを英語に訳すのは難しいので、直訳はNG。自分が理解した上で、エッセンスを文書にしていく
- ー 同じ言葉を使わない
- ー ボキャブラリーを増やす
- ー 1文は短く
- ー 色んな表現方法を身に付ける

あれあれ。筆者が日本語で言っていることと一緒にじゃないですか。

しかも、「実は、日本語と勉強の仕方は一緒ですよ」なんて。

英語の勉強がなんだか楽しくなりそうな一言をいただきました。

2019 年 02 月 04 日

---

## SHORTAGE OF BCG VACCINES IN MAJOR COUNTIES MAY PREDISPOSE CHILDREN TO TB.

Majority of counties in Kenya are experiencing shortages of BCG vaccine which prevents children against Tuberculosis disease.

Hospitals in Kisumu, Nakuru, Homabay, Samburu and Siaya Counties are experiencing

serious shortages of BCG Vaccine since they have not been supplied by the National Government since June 2018 due to payment rows with KEMSA.

Public Health officers from these counties have echoed the concern but have been promised to be delivered in due course from the Nairobi Depot.



The good news is that coverage of BCG vaccination is above 90 percent as per County Public health officers in charge of vaccination.

The national government has issued a directive to furnish the counties with the supplies as it sorts the payment issues with the management of KEMSA.

(邦訳)

**主要カウンティでBCGワクチンが不足。子どもたちに結核罹患の恐れ**

ケニアの多くのカウンティでは、子どもたちを結核の疾病から守るBCGワクチンが不足しています。

キスム、ナクル、ホマベイ、サンプル、シアヤカウンティでは、ケニア国政府から供給が滞っており、BCGワクチンの不足が深刻です。これは2018年6月以来KEMSA（ケニア医療品供給社 Kenya Medical Supplies Authority）への支払遅延に起因しています。

これらのカウンティの公衆衛生責任担当者は懸念を共有していますが、ナイロビの備蓄庫からやがて運ばれることが約束されるのみで、供給が早まることはありません。

よい知らせとしては、ワクチンを担当しているカウンティ公衆衛生当局者によって、BCGワクチンの予防接種率は90%以上です。

ケニア国政府は政令を発し、これらのカウンティに供給し、KEMSAのマネジメントと支払問題の解決を図ることを目指しています。

## MY MOTIVATION FOR THE THIRD YEAR PROJECT

My desire is to see a healthy community with nutrition information and knowledge in order to make wise decisions when it comes to nutrition matters.

Reaching out to mothers and children will elevate the community nutrition status.

Mothers make nutrition decisions at home about children who are tomorrow's generation.

When TB patients are well nourished, they recover quickly and lower their chances of being re-infected.

I am looking forward to being part of the third year project with Results Japan Kenya and hope that it will impact positively on the lives of Kangemi community.



(邦訳)

### 第3期プロジェクトへの私のモチベーション

健全なコミュニティが栄養についての情報や知識に基づいて、栄養に関わることを賢く決められるようになるのを見届けるのが私の望みです。

(地区の) お母さんたちや子どもたちに直接話をする事で、地区の栄養状態をよりよくします。

お母さんたちは家庭で、明日の世代の子どもたちの栄養に関わる決断をしています。

結核患者の方がよい栄養状態にあるとき、快復が早く、また再発するリスクを低くします。

日本リザルツ ケニア第3期プロジェクトのメンバーであることを楽しみにしているだけでなく、カンゲミ地区の生活にポジティブな影響を与えられるよう頑張ります。

## A VISIT TO THE EMBASSY

For the first time, we were invited to a special signing ceremony on the evening of January 30, at the Embassy of Japan in Kenya.

I experienced a unique and diplomatic evening with the staff there, and a special treat of Japanese tea.

I was amazed at the reception of the people and at the fantastic architecture and elegance of the Embassy buildings.

Importantly, I was elated because we were ready to begin the third year project after Yuko san signed the project documents.

Thanks to all who made this program successful.



(邦訳)

## 大使館訪問

私達は、1月30日の夕方に執り行われた調印式に招待され、初めて在ケニア日本国大使館を訪れました。そこでは、大使館スタッフとユニークで外交的なひと時を過ごし、日本茶を振舞っていただきました。

私は、大使館の方々のおもてなしと、大使館の建物の造形や優美さに感銘を受けました。重要なことは、優子さんがプロジェクトの文書に署名をしたことでプロジェクトの第3期を開始できるようになったことで、私のやる気も高まってきたということです。このプロジェクトを成功させてくださった皆様に感謝申し上げます。

## FIRST TIME INSIDE JAPANESE EMBASSY

Embassies are normally high-security areas and getting access to them is very hard. I have been in a few other but never before into the Japanese Embassy.

During the 3rd year project ceremony, I got a chance to go inside and experience Japanese diplomacy for a while.

I had a lot of hopes to meet Ambassador Uesawa but unfortunately, he was held up in other duties. Fortunately, we were glad to meet Deputy Chief of Mission Mr. Katayama who we conducted the signing ceremony with.

Inside the Embassy we were ushered while Yui san and Yuko san greeted each other by bowing, reflects the nature of Japanese culture, something that was very honorable.

We were also served with Japanese green tea which was totally different from my expectation of tea. The experience was amazing. With such visits and interactions at the Japanese embassy, we can get much exposure and learn a lot.



(邦訳)

## 初めての日本大使館の内側

大使館は、たいてい警備がしっかりしていて、アクセス許可を得るのがとても難しいです。その他の国のところには行ったことがありますが、日本大使館には今まで行ったことが

ありませんでした。

プロジェクト3期目の調印式の間、入館をする機会を得られ、日本の外交を少しの間経験しました。植澤大使にお会いできるのではと期待していましたが、残念ながら、その他の公務がおありになったとのことでした。幸運にも、調印式をご一緒にいただいた片山公使参事官にお会いすることができとても嬉しかったです。

大使館内を案内していただきました。高島さんと長坂さんがお互いにお辞儀をしている様子が、とても尊敬に値する日本文化の本質を表していました。日本の緑茶もいただきました。私が想像していたお茶とは全然違っていました。

この経験は素晴らしかったです。このような訪問や日本大使館での交流を通じて、社会に出たり、たくさん学んだりすることができました。

## THIRD-YEAR SIGNING CEREMONY AT THE JAPANESE EMBASSY IN KENYA

On Wednesday, January 30, 2019, Yuko-san, Dr. Asma Ali and the Kenya office staff attended the signing ceremony of the Third Year Phase project in Kenya. The ambassador, Mr. Toshitsugu Uesawa was held up in a tight meeting, and as such, the Deputy Chief of Mission, Mr. Katayama took us through the signing.



Just after the signing, Katayama san asked a few clarifications

from Yuko-san, who explained in detail about the next project, whereby many Japanese companies will be engaged. Further, although in Japanese, Yuko-san explained the activities that will be done all through the third-year phase.

Later, at the lounge, Yuko san and Yui san held further discussions, before we finally left the embassy.

In the third-year project, the activities will benefit a bigger number of people, and this by itself inspires a lot of motivation to ensure it succeeds. Also, since it is the last phase, we are inspired to make it sustainable in the long run, by sensitizing the Kangemi people about the importance of nutrition, WASH, sanitation and fighting against TB.

Also, with the cooperation of the Nairobi County Health Services we trust the activities will continue much after the end of the project.



(邦訳)

### 3期目のプロジェクトの調印式がありました

1月30日（水）、長坂さんやウエストランズ保健省のアズマ博士、そしてスタッフは3期目のケニア事業の調印式に行きました。植澤大使はお忙しいということで、片山公使参事官が代わりに調印をしてくださいました。

調印のあと、片山公使参事官はプロジェクトの概要や企業との連携をどのように進めるのかを長坂さんに質問していました。日本語での会話でしたが、長坂さんはアクティビティの内容と3期目をどのように成功させていくかを説明していました。

その後、高島書記官と長坂さんが細かい打ち合わせを行い、私たちは大使館を後にしました。

3期目のプロジェクトは、より多くの人々を対象にして事業を行います。事業の成功のために熱意をもって取り組みを進めたいと思います。また、最終年度の事業であるため、カンゲミの人たちが自分たちで取り組みを進められるよう、栄養、水とトイレ、衛生、そして結核抑止のアドボカシーを進めていきたいと思います。そして、ナイロビ カウンティとの連携で、プロジェクトを最後まで円滑に運営していきたいです。

現地スタッフのアイデアとパワーで実り多き事業にしていきたいですね。

## 第七回国際母子栄養改善議員連盟のご案内 (締切り間近です！)

第七回国際母子栄養改善議員連盟が下記の通り開催されます。会場の制約から、定員を80名、申込締切日を2月7日とさせて頂いております。

締切りが間近になっておりますので、関心のある方は至急お申込みくださるようお願い申し上げます。なお、申込み多数の場合は、「立ち見」となることも予想されますので、ご了承ください。

### 記

日時：2月14日（木） 11:00～12:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

議題：国際的な栄養改善への取組みの最新状況および  
2020栄養サミットへ向けて日本に期待すること

ゲスト：

外務大臣政務官 鈴木憲和

ビル&メリンダ・ゲイツ財団 ケダール・マンカド

SUN市民組織ネットワーク キャサリン・リチャーズ

ワールド・ビジョン・インターナショナル ダン・アーバイン

リザルツ教育基金 ナンディニ・ピリアイ 他 （通訳付き）

申込締切日： 2月7日(木)

なお、会場の制約から受付は先着順とし、定員（80名）に達し次第締め切らせていただきますことをご了承願います。お早めのご登録をお願い致します。

2019年02月05日

---

## @ケニア・ナイロビ Abutaさん

ケニア・ナイロビの日本リザルツ ケニア事務所から  
小休止ネタを一つ。

ケニア事務所で事務作業などの補助をしてくれるアブ  
タさんです。

元ラガーマンということもあって、体格也大柄です。

写真をお願いするとポージングをしてくれました。感  
謝。

笑顔が爽やかですね。



## @ケニア・ナイロビ 清掃活動

本日のケニア・ナイロビは、最高気温がおよそ26度です。

先週末は最高気温30度前後だったので、幾分かまだ過ごしやすい陽気です。

早速ですが、ナイロビ市カンゲミ地区で、清掃活動とごみ箱の使用状況の確認を行いました。カンゲミ地区のヘルスセンターでは、TB-LAMP法を使い、結核検査や治療などが行われています。朝から現地スタッフとともに敷地内を清掃しました。

また、現地の行政関係者などのご協力のもと、カンゲミ地区の複数個所にごみ箱を設置しています。地区の人たちがごみ箱を使うことで、路上へのポイ捨てを止め、居住環境が向上するようにするためです。ただ、実態としては、ごみ箱を使ってくれているのですが、ごみの回収が追いついていません。清掃活動・ごみ箱普及活動について、住民の方々は理解を示してくださっていますが、まだまだ厳しいのが現状です。



## GGG+フォーラム東京2018の 議事録が完成しました

2018年12月3日に開催されたGGG+フォーラム東京2018の議事録が完成しました。素晴らしい冊子が出来上がりました。政官民一体となったこの素晴らしい事業がわかり易く掲載され、かつ興味深い内容です。また、TICAD7に向けて頑張っていきたいという皆様の熱意がひしひしと伝わってきます。レセプションの和気藹々とした空気、小学3年生の山元翔太くんのかわいい質問など盛りだくさん。現在、発送準備中です。お読みにになりたい方は是非、事務局までお知らせください。



2019年02月10日

## ケニア結核プロジェクトがスタート

2月1日（金）より、ケニア結核プロジェクトの最終年度の事業が本格的にスタートしました。

今期の事業では、結核が栄養不良、公衆衛生の不備、きれいな水の

不足、そして貧困など様々な要因でまん延しているということを鑑みて、より包括的な取り組みを行っていく予定です。

お掃除隊長のヒルダを筆頭にカルヴィン、ディッケン、シコ、そして日本人スタッフが毎日掃除を行っています。

カンゲミヘルスセンターのシェム所長から、施設がゴミ1つないきれいな場所になったと、お褒めの言葉をいただきました。

また、2期目でカンゲミ地区内に設置したゴミ箱周辺の清掃も実施しています。

カンゲミでは、行政のキャパシティ不足からゴミ回収が定期的に行われていません。ゴミ箱は設置したもの

の、回収が行われなため、ゴミ箱周辺がゴミ山になってしまうという問題が生じていました。

今回はゴミ箱内とその周辺の燃えるゴミと燃えないゴミを分別し、燃えるゴミは燃やしてゴミの総量を減らすとともに、周辺に溢れたゴミの掃除を行いました。

最後はぴかぴかに。

ヒルダ隊長もゴミ箱周辺がきれいになり、ご満悦でした。折しも、今GGG+フォーラム東京（昨年12月開催）の議事録を英訳していますが、こういったところに日本の知見が活けるといいなと感じました。





2019 年 02 月 11 日

---

## 戯曲書いています。

ここ数年、現代演劇の戯曲を書いています。仕事の合間に、いろいろと着想が沸き、週末に書いています。内容はスナノミのために運動靴を集めてケニアに送る家族のお話です。いままでばらばらだった家族がボランティア活動を通じて、その絆を取り戻していくストーリーです。いつか、この戯曲の公演ができることを楽しみにしております。



## BEYOND ZERO CAMPAIGN GETS A HUGE BOOST

The media fraternity has donated millions into the First Lady Margaret Kenyatta's Beyond Zero campaign ahead of the marathon set for March 10. The Kenyan media have shown their huge support by donating Ksh77 million to the campaign which is aimed at safeguarding the health of mothers and children.



The campaign has been run by First Lady Margaret Kenyatta and it has been a huge success as she said during the reception of the money.

'Beyond Zero Initiative has had a huge impact in health care delivery to the financially challenged especially in the remote areas of the country'.

"The impact on the ground is truly amazing. You can feel it and you can see it," Mrs Kenyatta affirmed. She further revealed that her current focus is on obstetric fistula, a condition she noted continues to frustrate many women. Other corporate donors include the Commercial Bank of Africa, whose team, led by its CEO Jeremy Nguze, gave Ksh30 million and the Co-operative Bank of Kenya which gave Ksh20 million.

With this spirit towards medical care, Kenya can reach the goal of Primary Health Care and UHC at large.

(邦訳)

## BEYOND ZEROキャンペーンにもものすごい追い風

3月10日のマラソンイベントに先駆けて、マーガレット・ケニヤッタ大統領夫人のBeyond Zeroキャンペーンに数百万ケニアシリングが、寄付されました。

ケニアメディアは、キャンペーンに7千7百万ケニアシリングの寄付をするなど、多大な支援をしています。このキャンペーンは、母子の健康を保護するために行われます。

このキャンペーンは、ファーストレディのマーガレット・ケニヤッタさんによって運営されており、素晴らしい成功を収めてきたと、寄付の受け渡しの際に彼女は言いました。

「Beyond Zero Initiativeは、経済的困窮者、特にケニア国内過疎地域にいる方にヘルスケアを届けるため、大きなインパクトがあります。」

「この世間へのインパクトは本当に素晴らしいです。実感でき、目に見える形になります。」と、ケニヤッタ大統領夫人は訴えました。彼女の現在のフォーカスは、産科瘻孔です。多くの女性を苦しめ続けている状態だと、述べました。

その他の企業寄付は、Jeremy Nguze CEO率いるCommercial Bank of Africaから3千万ケニアシリング、Co-operative Bank of Kenyaから2千万ケニアシリングと続きました。

この医療に向けてのスピリットで、ケニアはプライマリーヘルスケアの目標、さらにはUHCの実現に到達することができます。

## ROLL OUT OF NIIMS REGISTRATION TO IMPROVE HEALTHCARE BUDGETING

The government plans to roll out the National Integrated Identity Management System in the country, for mass digital registration starting March this year.

The system will create, manage and operate a national population register as a single source of personal information for all Kenyan citizens and Foreigners in the country.

This will be critical in knowing the exact number of people in a specific area, their health needs, and whether available facilities and supplies meet the demand.

Target population is people living within the borders of particularly Kenya- Uganda and



Kenya-Tanzania border which are frequent on movement in and out of the country. The main aim for the government is to register all participant on the National Health Insurance Fund. This scheme is essential for all Kenyans to access health services in any part of the country freely. This is important for the Government for the big 4 agenda that the government is trying to achieve in sustaining the development goals towards the Universal Health Coverage in the Country.

(邦訳)

### 医療予算改善に向けてNIIMS（ケニア国内統合個人情報管理システム）の公開

政府は大量のデジタルデータ登録を本年3月から始め、国内統合個人情報管理システム（National Integrated Identity Management System, NIIMS）の公開を計画しています。

このシステムはケニア国民と同国内の外国人の個人情報を一元管理し、登録人口（戸籍）を作成、管理、運営するためのものです。特定の地域で正確な人口を知ること、彼らの健康ニーズ、また利用可能な施設や供給品が需要を満たしているのかを把握するために欠かせません。対象人口は国境内に住んでいる人の中でも、特に、人の国内外への移動が頻繁に行われているケニアーウガンダ国境、ケニアータンザニア国境付近の人です。政府の主な目的は国内健康保険基金のすべての加入者を登録することです。

このスキームは、すべてのケニア人が国内のどの場所でも自由に保健サービスにアクセスするために必要不可欠です。

政府にとっても重要です。ビッグ4アジェンダ（訳者補足：ケニア国大統領ケニヤッタ氏が掲げる4大政策 1. 製造業振興、2. 食料確保・栄養、3. UHC、4. 廉価な住宅供給のこと）で、国内UHCに向けた持続的開発目標実現に向けて取り組んでいるからです。

## WASTE NEEDS TO BE PRIORITIZED

Uncollected solid waste is one of Nairobi's most visible environmental problem. Many parts of the city, especially the low and middle-income areas, don't even have waste collection systems in place.

In high-income areas, private waste collection companies are booming. The residents pay without really caring where the waste will be dumped.



Nairobi's current waste disposal system has failed to prioritize garbage in terms of infrastructure and also actors that are involved aren't controlled or supervised.

There is no enforcement of laws and regulation that can help govern the private sectors involved.

The county government according to reports has clearly stated that it cannot manage 2475 tons of waste that are produced daily.

There is a need for institutional change that will be sustainable because efforts of late efforts have been put in place by the Governor that left some places of the city clean but unfortunately, they worked for a period of time and the situation was the same again.

Fortunately, JICA has entered into an agreement with Nairobi County to assist it to develop a sustainable solid waste management system.

(邦訳)

**ごみ問題を優先的に取り扱わなくてはなりません**

収集されない都市ごみは、ナイロビにおいて最も目に付く環境問題です。街中の多くの場所、特に低所得や中所得地域では、ごみ収集システム自体がありません。

高所得地域では、民間のごみ収集業者が続々と誕生しています。居住者は、ごみが最終的にどこに捨てられるかを気にすることもなく、業者にごみ処理費用を支払っています。

ナイロビが現在保有するごみ処分システムでは、インフラの問題、そして関係者の管理及び訓練不足によりごみ処理を優先することができませんでした。

ごみ処理に携わる民間部門を管理するための法令也没有ありません。

報道によると、カウンティー政府は日々生み出される2,475トンものごみを処理することはできないと述べたといいます。

持続的なごみ処理のために変化が必要です。知事の実施により、一部の地域がきれいになりましたが、その実施は一定期間のみで、その後状況は元に戻りました。

幸運にも、JICAがナイロビとの間で持続的な都市ごみ処理システムの開発について同意を結びました。

## 理事会・総会

日本リザルツでは2月8日金曜日に、理事会及び総会を開催しました。

今回は特に総会に多数のご参加をいただき、議題以外の部分でも様々な議論がなされて盛



況でした。

また、総会終了後に懇親会を開き、こちらも大いに盛り上がりました。





## CHVs ARE VERY VITAL IN THE HEALTH SECTOR

It will cost Kenya 11 billion shillings over the next four years to hire CHV's, Mr. Daniel Kavoo the acting head of the Community Health and Development Services unit at the Ministry of Health said during the Reproductive, Maternal, Newborn, Child Health and Nutrition conference organized by World Vision in Nairobi on 5th February.

The health volunteers will play the biggest role in the Universal Health Coverage because they provide primary and health promotion services.

Alice Yugi, the nutrition and child health expert at World Vision Kenya said without the volunteers, Kenya will not improve her nutrition, maternal and child health indicators.

"The CHVs boost maternal and child health by sensitizing mothers on the need for good nutrition during pregnancy and once the child is born," she added.

The volunteers will be trained by the national government but will be compensated by the counties and each will be paid a token of Shs2,000 every month whereby they will serve in their own villages.



(邦訳)

## CHVsは保健分野に不可欠な存在

2月5日ナイロビでWorld Visionによる生殖、母子、新生児の保健と栄養会議が開催されました。その中で、保健省のコミュニティ保健展開サービス部門長代理のダニエル・カザー氏は、CHVs（Community Health Volunteers コミュニティ保健ボランティア）を雇用した場合、次の4年で110億ケニアシリングをケニア政府は負担することになる、と述べました。保健ボランティアは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）において最大の役割を担っています。プライマリケアと健康促進サービスを提供しているからです。

World Vision Kenya栄養・小児健康専門家のアリス・ユギさんは、ボランティアなしでは、ケニアは栄養、母子保健の指標を改善することはできないと、述べました。

「妊娠時と出産後におけるよい栄養の必要性を母親たちに伝えることで、CHVが母子保健を促進しています。」

ボランティアはケニア国政府によりトレーニングを施される一方で、カウンティ（地方自治体）に賃金を支払われることになります。各ボランティアは2,000ケニアシリング／月を支払われることで、自身の村で働くようになります。

訳者補：現地紙the Starの新聞記事の情報を参考しています。

Health volunteers to cost Kenya Sh11bn By JOHN MUCHANGI

## NURSES' ONGOING STRIKE TO AFFECT HEALTHCARE SERVICE

Nurses have gone on strike over the unfulfilled collective bargaining agreement to increase their salary three years ago.

Salaries and Remuneration Commission chairperson Lyn Meng'ich declared that the government would not be able to meet nurses' pay demands because it can't afford to.

Council of Governors, Ministry of Health and the National Treasury have all confirmed that they do not have money to pay the nurses.

“If we give in to the nurses' demands, other health workers will also demand the same. This



will have a ripple effect on the health sector,” she said.

The strike is on in West Pokot, Kisumu, Taita Taveta, Trans-Nzoia, Elgeyo Marakwet, Wajir, Mandera, Vihiga, Tharaka-Nithi, Nyandarua and Nyeri. Tomorrow, nurses in Garissa, the Ministry of Health, Samburu, Kirinyaga and Embu will join the strike.

In Kisumu County, surgical, laboratory and maternity services have been affected.

On February 18, Muranga, Busia, Nakuru, Siaya, Narok, Makueni, Bomet and Tana River will join the strike.

Kenya National Union of Nurses secretary general Seth Panyako said that they have been patiently waiting for the governors to act but read mischief in their assertion that there is no money yet it was budgeted for.

Senators are now asking the governors to sit down with the nurses and thrash out a workable agreement so that services can resume in hospitals.

In the meantime, Kenya’s healthcare services will be affected given that 80 % of the medical needs of Kenyans are handled by the nurses.

(邦訳)

## ケニアの看護師がストライキを開始

3年前から続いている賃上げに関する交渉が決裂したため、看護師たちがストライキに入りました。

ケニア政府の賃金・年金交渉担当のLyn Meng’ichは、資金不足から正式に看護師たちの要求を受け入れることができないと公表しました。

また、各州政府、保健省、そして国庫は看護師たちに支払う資金はないことを確認しました。

「もし看護師の要求だけ聞いていたら、他の医療従事者の言うことも受け入れなければならない。これは負の意味で波及効果をもたらしてしまう」とLyn議長は述べました。

ストライキはすでに西ポコト、タイタ、タベタ、トランゾイア、エルゲヨ、マラクエット、ワジル、マンデラ、ヴィヒガ、タラカニシ、ニャンダルア、そしてニェリで起こっています。明日からは、ガリッサ州の保健省と、サンプル、キリニャガ、そしてエンブがストライキに加わります。

キスムカウンティでは、手術、検査所、物資、そして母子保健サービスにすでに影響が出ています。また、2月18日からは、ムランガ、ブシア、ナクル、ナロック、マクエンニ、ボメット、そしてタナリバーがストライキに入ります。

ケニア国家看護師連合のセス・パンヤコ事務局長はこう言いました。「州政府が動いて下さることを辛抱強く待っていましたが、お金を支払うことができないという誤った見解が出



てしまいました」と。

議員たちは、病院のサービスが維持されるよう州知事に対し、看護師たちと徹底的に業務に関する合意について議論するよう要請しています。

しかしストライキの間、ケニアの医療サービスに関して、看護師による医療へのニーズのうち80%ほどに悪い影響を及ぼします。

前回のストライキでは、多くの人が医療サービスを受けられずに亡くなりました。早急に問題が解決することを祈ります。

2019年02月12日

---

## カンゲミ地区での清掃活動とごみ問題

ケニア・ナイロビからの現地情報をお届けします。

日本リザルツは、カンゲミ地区のヘルスセンターで結核抑止プロジェクトに取り組んでいます。

今期の事業では結核をただ抑止するだけでなく、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の促進につながるように公衆衛生の改善や清掃活動にも力を入れています。

ヘルスセンター内の掃除を行った後、地区内に設置されているごみ箱の様子をチェックし、清掃を行っています。また、今週月曜日には、ごみ箱の設置状況をナイロビ・カウンティの担当者の方に報告に行きました。

というのも、こちらでは、急激な人口増加などでごみが増える一方、ごみ回収や焼却炉の能力が追い付いていない状態が続いているからです。

先月の報道ですが、Construction Review Onlineによるとケニアでも新しい焼却炉導入計画が進んでおり、ごみの焼却により生じたエネルギーを再利用できるようなタイプを検討しているということです。

同様のタイプは、エチオピアでも導入が進められています。

ごみの処分問題とエネルギー供給問題、双方の解決策になるのでしょうか？今後の動向をチェックしていきたいです。

写真は掃除後ののどかな一コマから。ごみ箱の近所のお家で飼われていたヤギです。



## 国会議員の先生方に GGG+フォーラムの報告書を配布！

「GGG+フォーラム東京2018」の報告書を、GGG+や栄養・健康問題に関心のある衆議院・参議院議員の先生方に配布しました。ボランティアの藤崎さんにもお手伝い頂いて効率的に作業を進めることができました。藤崎さん、いつも温かいお気持ち有難うございます。

先生方にはお会いできませんでしたが、何人かの秘書の方々に直接お渡しできたことは良かったです。先生方が報告書をご覧になり、14日の栄養議連会合に多数ご出席頂けると嬉しいです。

2019年02月15日

---

## 第七回国際母子栄養改善議員連盟

昨日、衆議院第一議員会館において第七回国際母子栄養改善議員連盟が開催されました。今回は、国際的な栄養改善の取り組みに携わるゲスト5名を海外からお招きし、日本政府からは鈴木外務大臣政務官にご出席いただきました。



ゲストの5名からは、栄養の改善に関して日本が自国内で成し遂げてきたことや、国際的な取り組みにおける貢献について、世界の栄養関係者が広く認識及び感謝していることが述べられました。そして、そのような国であるからこそ、日本は世界の栄養改善においてチャンピオンになることができるということ、また世界が日本に期待をしているということも述べられました。



ビル&メリンダ・ゲイツ財団  
ケダール・マンカッド氏



SUN市民組織ネットワーク  
キャサリン・リチャード氏



リザルツ教育基金  
ナンディーニ・ピライ氏



国連世界食糧計画  
ファティハ・テルキ氏



ワールド・ビジョン・インターナショナル  
ダン・イルヴァイン氏

議員連盟の猪口先生からは、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会と成長のための栄養（N4G）サミットの目標との結びつきについて提起があり、それに対して海外ゲストから方策や実際に進められている計画について情報提供がありました。



続いて、各省庁及びJICAから、N4Gサミットへ向けた事業の進捗及び今後の方針について紹介されました。





その後、逢沢副会長によるコメント及び塩崎顧問による閉会の辞があり、第七回国際母子栄養改善議員連盟は大盛況のうちに閉会を迎えました。



2019年02月17日

## 特定養護老人ホーム

義父96歳は要介護5です。歩いて5分のところに認知症の義母と一緒に住んでいます。先週の金曜日に江東区から特別養護老人ホーム（特養）の候補のお知らせ（入居可能）が来ました。早速、30年の古株の特養さんを拝見しに行きました。案内のあった特養のスタッフの方が素晴らしいので、すぐに気に入りました。施設のほとんどが4人部屋ですが、清潔で広くて明るく素晴らしいのです。そして、廊下も広いのです。しかし、その廊下の広さが



問題です。トイレは4人部屋ではなくて、部屋からトイレまで歩いていく必要があります。義父は足が悪いのですが、寝たきり状態ではないためトイレまで歩いていかなくてもなりません。難しそうです。

今はヘルパーさんと看護師さんの訪問看護をお願いしていますが、この状態にするのも大変でした。ヘルパーさんが家に入るのを義母が拒否して、去年は苦勞の連続。今は義母が彼らを追い返したり、部屋に入れないこともなくなりました。落ち着いているようです。

そこで、家族会議です。ぬいぐるみたちとも相談して今回はお断りして、家で訪問看護を継続することにしました。家族会議の直後、トイレトペーパーを補充しにいった家内が介護を終了して帰るヘルパーさんとすれ違いました。今日は義母が入室を拒否したので、預けてある鍵で家に入ったそうです。悩みは尽きそうにありません。もうすぐこちらが介護される年齢になりそうです。こんな悩みも贅沢な悩みなんだと思う今日この頃です。



## スラム街のごみ問題

日本リザルツが事業を行っているスラム街のカンゲミ地区では、劣悪な衛生環境が深刻な問題となっています。

その1つがごみ問題です。

これまでは、定期清掃やごみをごみ箱に捨てるという習慣がありませんでした。そのため、ごみはあちこちに散乱し、ごみ山ができていました。



そこで、日本リザルツもウエストランズ保健省と共同で、ごみ箱を設置しました。ごみ箱を設置したお陰で、人々はごみをごみ箱まで持ってくるようになってきたそうです。

しかし、まだ大きな問題があります。

ナイロビ市のキャパシティ不足で、行政でのごみの定期回収が定期的に実施できていないのです。

ごみ箱から最終処分場への輸送が行われなため、ごみがあふれかえってしまっているごみ箱がいくつかありました。



そこで、ヒルダ隊長のもと、カルヴィン・ディッケン・アブタのたくましい男性スタッフと筆者で、ゴミ箱周辺の清掃を実施しました。

ゴミがきちんと最終処分場に運ばれ、適切に処理されるよう、知恵を捻りたいと思います。



2019年02月18日

## INSECURITY AFFECTS FOOD SUPPLEMENT DISTRIBUTION IN WAJIR COUNTY

The rise of insecurity in Northern Kenya has made health workers resign, a move that has affected not only the food supplement distribution but also the health sector in general in Wajir County.

A report by standard explains that a survey carried out in 2017 by the Wajir County government, UNICEF, World Vision and Save the Children found nutrition outcomes in Wajir had deteriorated significantly.



According to the survey, 16 percent of children aged 5 and under were acutely malnourished. It also found that the stunting rate for the same group was 12 percent and 7.5 percent, respectively.

Nine percent of women of reproductive age were also found to be malnourished. Much as CHVs have been trained and have experience in issuing vaccines and food supplements, they have to wait for the partner organizations such as Red Cross to send them nurses to conduct the exercise.

This takes a long time before the organizations can get a replacement and therefore the food supplements end up in the facility shelves, not reaching the vulnerable community members.

(邦訳)

不安定な情勢によりワジルカウンティでの保健食品の供給に影響が

ケニア北部での不安定な情勢によりヘルスワーカーが離職する事態が続いています。ワジル (Wajir) カウンティでは、保健食品供給だけでなく保健分野全般にも影響を及ぼしてい

ます。

Standard紙の報道によると、2017年ワジルカウンティ政府、UNICEF、World Vision、Save the Childrenが実施した調査で、栄養状態が著しく悪化していたことが明らかになっています。

この調査によると、5歳以下のこどもの16%が深刻な栄養不良でした。さらに、成長阻害の状態にあるこどもは5歳が12%、5歳未満が7.5%であることもわかりました。

出産年齢に達した女性のうち9%が、栄養不良であることもわかりました。多くのCHVはトレーニングを受けたり、ワクチン、保健食品における経験がありますが、赤十字などのパートナー組織が看護婦を派遣し、実際に行動に移るまでは待機しています。

各組織が代替人材を見つけられるまで長い時間を要してしまい、保健食品が施設の棚でお蔵入りになっており、弱っているコミュニティの方々には届いていない現状になっています。

## NEONATAL DEATHS ON THE RISE.

The national infant mortality rate in Kenya stands at 22 for every 1000 live births. Much as the numbers are not that worrisome but if most are contributed by a single institution, something is terribly wrong.

According to Daily Nation Newspaper, Kiambu Hospital in Central Kenya has reported a high percentage of deaths in the last two months, amounting to 60 Neonatal deaths.

The cause of the deaths has been attributed to negligence by the hospital personnel among other causes.

But in their defense, the Hospital said that at least 35 of them were pre-term deliveries and even worldwide the pre-term babies stand fewer chances of survival.

The hospital neonatal mortality rate is at 15 to 1000 live births.

This discovery comes in a time when First Lady Margaret Kenyatta has intensified her war against mother and child mortality through her Beyond Zero campaign and it is my hope that the mortality trend will soon be history.

Consequently, this issues lies under UHC and failure for the government to act promptly it will shake the presidential pillar of UHC attainment.



(邦訳)

## 新生児の死亡件数が増加傾向

ケニア国内の新生児死亡数は1,000人当たり22です。この数字自体が大きく気になるということはありませんが、もし1つの医療機関がこの数字に特に関わっているとすると、何かがおかしいです。

Daily Nation紙によると、ケニア中央部のキアンブ病院 (Kiambu Hospital) が直近2か月で高い新生児死亡率を報告し、亡くなった新生児の数は60に及びます。複数の死因の中から病院スタッフの不注意・過失によるものとされています。

一方、病院側は、その(死亡数)のうち少なくとも35件は早産によるもので、世界的に見ても早産の新生児は生存率が低い傾向にあると、反論しています。この病院の新生児死亡率は1,000人当たり15です。

マーガレット・ケニヤッタ大統領夫人が、Beyond Zeroキャンペーンを通じて母子死亡率に対する闘いにより、(高い)死亡率の傾向をすぐに過去のものとするのが希望だと強調していた最中のできごとでした。

こうした背景から、この一件によりUHC (の実現) に対して、また、政府が迅速な対応を欠いていることに対しての疑念が生じてしまいます。このままでは、大統領の公約の柱であるUHCの達成を大きく揺るがしてしまうことにもつながりかねません。

この投稿は、Daily Nation紙ERIC WAINAINA記者報のAlarm as 60 babies die at Kiambu Level Five Hospitalを参考にしています。

## UHC AND ITS SIGNIFICANCE IN KENYA

The Kenya constitution and the vision 2030 advocates for UHC by expanding and implementing the health insurance program.

Kenya continues to make strides towards promoting UHC. According to Mrs. Sicily Kariuki Cabinet Secretary for Health, at least 3.2 million Kenyans in four counties will be the first beneficiaries of a new health package being developed by the Government.

The counties, under the Universal Health Coverage programme beneficiaries, will include Kisumu, Isiolo, Nyeri, and Machakos.

As focus moves to building a healthy nation, we agree that this means we ensure families get





the proper nutrition they need. Improved nutritional status could help achieve UHC and decrease deaths among children fewer than 5 years, therefore increasing human development.

Access to ICT services and internet connectivity to help strengthen health information systems will create job opportunities and encourage young people to get the skills needed to fill in these gaps.

Systems redesigning, improvising data generation and management and capacity building for health care workers are areas that will promote social development and help achieve Universal Health Care.

Achieving Universal Health Care will be paramount to achieving Kenya's Vision 2030 that aims to transform Kenya into a newly industrializing, middle-income country providing a high quality of life to all its citizens in a clean and secure environment.

(邦訳)

#### **ケニアにおけるUHCの意義**

ケニアの憲法及び展望2030では、健康保険プログラムの拡大及び実施によるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）について提言が述べられています。

ケニアはUHCの推進に向けて前進を続けています。保健省のシシリー・カリウキ長官によると、4つのカウンティに住む320万人以上のケニア人が、政府が策定している新たな保健政策の恩恵を受ける最初の対象者となるということです。

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ・プログラムの恩恵を受けるのは、キスム、イソロ、ニュリ、マチャコスといったカウンティです。

健康な国づくりに焦点が移っていますが、それは各家庭で必要な栄養が取れるようにすることです。栄養状態の改善はUHC達成の助けとなり、5歳未満の子どもの死を減少させ、それにより人間開発を進めるものです。

保健情報システムの強化を助ける、ICTサービスへのアクセスやインターネットへの接続は、雇用機会を創出し、若い人々がギャップを埋めるために必要なスキルを取得するよう促します。

保健従事者のためのシステムの再構築、データ生成及びデータ管理、そして能力開発というのは、社会の発展を促進し、UHC達成の助けとなる分野です。

UHCの達成は、ケニアを新興国、中所得国に変化させ、清潔で安全な環境の中、全ての国民に高い生活の質を提供することを目標としたケニアの2030年展望を達成する上で最も重要なことです。

# KENYA IMPROVES IN FIGHT AGAINST AIDS, TB AND MALARIA

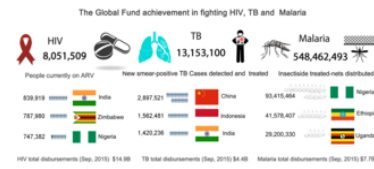
According to the audit report released last year November by Global Fund, Kenya has made significant gains in the fight against Malaria, Tuberculosis and HIV/AIDS but still, more is needed to be done to ensure quality delivery of health services.

Kenya – one of the Global Fund’s high impact’ countries with a high burden on Malaria, AIDS-related issues and Tuberculosis has enrolled more people on antiretroviral treatment, recorded a decline in AIDs related deaths and registered more success in TB treatment.

More grassroots advocacy campaigns have been raised to the Government and Kenyans as a whole to raise more funds internally and also requested for 5 percent of GDP to the Global Fund Kitty to aid in sixth Replenishment (2020-2022).

This can demonstrate its contribution towards achieving SDGs and building stronger health system to ensure healthy lives and promote well-being for all by pledging full support for a fully funded Global Fund that is able to scale up its fight against AIDS, Tuberculosis, and Malaria. According to the Daily Nation news Publication, “Aids-related deaths have reduced by 38 percent between 2013 and 2015 with a 52 percent increase in the number of people enrolled in antiretroviral treatment.”

The audit was conducted between January 2016 to December 2018 -to determine whether the Global Fund grants are adequate and effective.



(邦訳)

## AIDS、結核、マラリアとの闘い ケニア

昨年11月にGlobal Fundが発表した監査報告書によると、ケニアがマラリア、結核、HIV/AIDSに対して善戦してきました。ただ、医療の提供品質の確保には、まだ改善の余地があります。マラリア・AIDS関連や結核との闘いにおいて、ケニアはGlobal Fundの高インパクト国の一つです。ART治療に参加する人の増加やAIDs関連による死亡の減少、結核治療の成功が記録されています。より多くの草の根のアドボカシーキャンペーンが、ケニア国政府とケニア人全体に働きかけ、国内でより多くの資金を募ってきました。また、Global Fundの第6回増資会合（2020年—2022年）でGDPの5%が要望されています。この取り組みはSDGsの達成に向けた貢献を示しています。

より強固な保健システムの構築と健康な生活の確保とすべての人への福祉の促進には、Global Fundの資金調達における公約が守られなくてはなりません。AIDs、結核、マラリアとの闘いへの取り組みを強化することができます。Daily Nation紙によると、エイズ関連の死亡は2013年から2015年の間で38%減少し、ART治療に取り組んでいる人の数が52%増加しました。

Global Fundの監査はGlobal Fundの資金が十分に効果的であるかを決めるため、2016年1月から2018年12月の間にて行われました。

## ナイロビのごみ処理に関する報道

日本リザルツはケニア・ナイロビ市のスラム街カンゲミ地区で、結核抑止プロジェクトを実施しています。毎日清掃をしているのですが、カンゲミ地区のごみ処理問題に頭を悩ませている日々です。

今日は、現地行政の取り組みについて気になる報道がありましたので、紹介します。

「きれいな街で生活したい」という現地の人の生活目標の達成ができるよう、清掃活動などに今後も取り組んでいきます。ただ、個人でできることは限られているので、みんなの知恵を集め、実現を目指したいと思います。

引用元：The Standard紙, Jeckonia Otieno記者報 （2019年2月18日最終確認）

"Tobiko's new order against pollution."

「汚染を増長させるような行為の摘発に向け、ナイロビ川に生ごみを投棄した個人、企業、公的機関が、刑事告発されるようにケリアコ・トビコ（Keriako Tobiko）内閣官房環境長官が指示した」と、報じています。記事によると、対象地域の实地調査で生ごみの処理が適切に行われていないことが明らかになりました。また、ナイロビ市に流入する河川での水質汚染、作物の汚染があったための対応であることも、報じられています。

さて、ここで閑話休題です。

朝のミーティングで頭を使う作業をしていたので、糖分補給にみんなでクッキーを食べました。

アメリカでよくあるwhoopie pie（PA西部ではgobと呼びます）と、ミュンヘン仕込みのチョコチップクッキーの2種類です。

whoopie pieに焼いたマシュマロを挟むのもっとおいしいのですが、あいにくこちらのスーパーではよさそうなのが手に入りませんでした。ちなみにお手製です。



# BIG DATA TO LOWER COSTS AND PREVENT FRAUD IN HEALTHCARE

With big data technology, to hasten processes, healthcare delivery can improve a great deal, Kenya Health players have said.

According to CarePay chief executive Kees Van Lede, on launching the status report on health payment procedures, paperwork delays services by taking a lot of time. This makes it cumbersome to serve a large number of people who are in need of services.



However, with the use of big data, where patient identity and information is maintained, the payment can just be in a single tap. Making services faster, cheaper insurance, and covering the needs of millions of patients.

Through M-Tiba, a mobile saving and health insurance wallet patients can access instant approvals and claims payment, reducing by 30% the costs for health services.

“Technology is very important in handling data, and can reduce fraud and catastrophic costs due to sickness,” Lede said.

A recent report by WHO noted that fraud is a leading cause of inefficiency in healthcare.

M-Tiba is fast revolutionizing healthcare and has paid over 800 million in claims over the last year alone.

Apart from the 1400 private health facilities where it is in operation, it will be enrolling public hospitals from next year in over 37 counties.

Health insurance, in the near future, will be the single largest form of insurance owing to increased efforts to realize Universal Health Coverage.

(邦訳)

## ビッグデータが医療分野のコスト削減と詐欺を防ぐ

ビッグデータ技術を用いて、医療サービスの配達プロセスを加速させることが非常に重要であることを、ケニアの保健分野の従事者が述べています。

ケアペイという会社のチーフエグゼクティブであるKees Van Ledeさんは、医療支払い手続きや文書ベースの仕事に時間がかかり、サービスの遅延を引き起こしていることを伝えています。これは、医療サービスが必要な多くの人の手続きを煩雑化させています。

しかし、ビッグデータの利用によって患者を認知し、情報を管理できれば、ワンタッチで



支払いが可能になります。サービスの迅速化、コスト削減、そして何百万もの患者のニーズに対応することができます。

M-Tibaという、携帯を通じた貯蓄システムは患者が即時に支払いを要求することを可能にするとともに、ヘルスサービスにかかるコストを30%削減できます。

「科学技術はデータ管理をする際に非常に重要で、詐欺や病気による莫大なコストを削減することができます」とLedeさんは言いました。

WHOの最新のレポートでは、詐欺が効率の悪いヘルスケアの一番の原因になっていると報告しています。M-Tibaは昨年、支払いが滞っていた8億人への支払いを可能にし、ヘルスケア分野に一石を投じることができます。すでにサービスを提供している1,400の私立病院を除き、来年から37のカウンティの公立病院でこのシステムを導入する予定です。UHC実現への気運が高まっている今、保険システムは、近い将来、唯一かつ最も大きな要素になるでしょう。

システムをただ構築するのではなく、どうやって持続的に運営していくのかが、成功のカギになるとみられます。ケニア政府がリーダーシップを取って、成功に導くことを期待しています。

2019年02月20日

## アフリカ保健分野に関する企業等意見交換会

アフリカ保健分野に関する企業等意見交換会が2月15日に外務省で開催され、日本リザルツからは代表の白須が出席しました。この会は、今年横浜で開催される第7回アフリカ開発会議（TICAD7）に向けた取組みの一環として、アフリカの保健・医療分野、栄養分野、水・衛生分野等に関わりのある企業やNGOが集まり、意見を交換する場として開かれました。



22の企業やNGO等が参加し、各組織から取組みや関心事項について簡単な紹介が行われました。日本リザルツは、ケニアのナイロビで行っている結核対策事業の第3期がスタートしたことや、日本がグローバルファンドに拠出するお金が日本企業等に戻ってくるような仕組みづくりの必要性について話をしました。

アフリカの人々の健康と幸せのために頑張るといのは素晴らしいことだと思いますが、名誉だけでなく、お金の面でも正当な評価がなされ、それに見合った報酬があってしかるべきだと思います。日本の企業やNGOがアフリカの人々のために全力で事業を行えるようになると思います。

## 公明党「持続的な開発目標（SDGs）推進委員会・外交部会合同会議」について

本日、公明党「持続的な開発目標（SDGs）推進委員会・外交部会合同会議」が、衆議院議員会館地下一階B107会議室で開催されました。出席者には、山口代表、斉藤幹事長に加えて、座長の谷合正明議員他、同党議員が多数出席しました。全体では、18人の公明党市町議会議員、企業団体関係者、関係省庁等を含め全体で100名近い参加者があり、盛大な会議となりました。日本リザルツからは代表の白須が出席しました。

議事は、党代表挨拶、第二回SDGsアワード受賞団体（外務省）、取組み報告（アワード受賞団体5団体）、「SDGsアクションプラン2019」（外務省）について発表があり、引き続き参加者意見交換・質疑が行われました。

本推進委員会は、2016年1月28日に設置（座長：谷合正明氏、顧問：斉藤鉄夫氏、浜田昌良氏）されたものですが、翌日の1月29日には、白須から同党の推進委員会の設置状況を総理官邸の和泉内閣総理大臣補佐官にご説明し、政府部内にも設けて欲しい旨お願いしたことで、政府部内に持続可能な開発目標（SDGs）推進本部が設立されることとなりました。

こうした背景もあり、本日の推進委員会では、市町議会議員の何人かの先生方から白須に対して謝意の表明がありました。



## C20準備対面会合

2月18日と19日に笹川平和財団で開催されたC20準備対面会合に出席しました。

C20とはCivil 20のことで、G20が政府の集合体であるのに対し、市民社会組織（Civil society organizations）の集合体を指します。他にも経済団体（B20）、労働組合（L20）、科学者（S20）、シンクタンク（T20）、都市（U20）、女性（W20）、ユース（Y20）があり、様々な立場の人（マルチステークホルダー）の意見を活かして世界の課題を解決しようという取り組みです。G20では様々なことが議論されるため、C20の中でも次に挙げるようにいくつかの部会

(Working Group) があります。

・汚職防止 ・教育 ・環境、気候及びエネルギー ・ジェンダー ・国際保健 ・インフラストラクチャー

・国際金融制度 ・労働、企業及び人権 ・地域から地球規模へ ・貿易及び投資

日本リザルツはこの中で主に国際保健の分野に力を入れています。



会場の様子



岩附共同代表挨拶



富田G20大使と財務省武内局長



パネル・ディスカッション



保健ワーキンググループ

国際保健という区分の中でも、HIV/AIDS・結核・マラリアのような感染症、熱帯病、気候変動、非感染性疾患、研究開発など様々な事柄を扱っている人がいて、それぞれが自分の扱う分野を強調したいと考えている中、それらの意見をまとめてG20へ届けるという作業はなかなか大変そうだと感じました。今回のG20は準備期間が短いということもあり、慌ただしくなりそうです。

# 公明新聞「波紋」欄「さい帯血治療のすばらしさ実感」と題する記事を読んでー「気づき」を行動に移すことの重要性

2月20日付公明新聞の「波紋」欄に、「さい帯血治療のすばらしさ実感」と題する投稿がありました。ご家族の白血病の入院中に、さい帯血移植で多くの方々の命が救われたことに感動したという内容です。折しも、2月12日に日本女子競泳の池江璃花子さんが白血病の診断を受けたことが報告され、日本だけでなく世界中にショックが走りました。また、池江さんのニュースに関連して、市川海老蔵さんの父である団十郎さんが、白血病になって全国骨髄バンク推進連絡協議会の会長として活動されたということも知りました。



こうしたことから、日本リザルツホームページの白須代表の代表挨拶を読み直しました。白須代表によれば、骨髄バンクでのボランティアとしての活動を行う中で、代表の娘さんの大学の先輩が26歳の若さで白血病により亡くなったという不幸な出来事が切っ掛けで、30万人ドナー登録早期達成の活動のため、主体的に取り組む姿勢を示すことが重要であることに気づき、「厚生労働省内で献血と併行してドナー登録会の開催に至った」とありました。そこでの教訓に、「何か疑問に感じたり不都合があったりしたら、それを伝えることによって世の中が変わる」というくだりもありました。

筆者は、この「気づき」を行動に移すことの重要性に強く心を惹かれました。白須代表が骨髄バンクで得た教訓は、「私たち一人ひとりに世界を変えていく力がある、とのリザルツの理念そのもの」であるとしています。また、「政策を動かすには人の心を動かすこと。専門家しか分からない言葉を使うよりも、誰でも分かる簡単な言葉で訴えることが大切」ともありました。この言葉を改めて肝に銘じたいと思います。

2019年02月24日

## 勉強中

結核の勉強中です。小学校でツ反してから幾十年。忘れていた単語がたくさんあります。ツ反（ツベルクリン反応）、BCG、ストマイ（ストレプトマイシン）そして結核。結核は私



には遠いお話です。

40年前の22歳の時、55歳で退職した先輩の挨拶です。

「戦後すぐに結核になりました。もう助からないと家族ともども嘆きました。もうこれで最後だと覚悟した時に新薬が開発されたのです。好運にも新薬が投与されて助かりました。子供が生まれ孫もできました。感謝しております。もう、結核という言葉は死語ですが、皆さん、肺の病気は苦しいのです、・・・・。」

この挨拶以降、結核は私の中には存在していませんでした。私の演劇の題材にもなりませんでした。結核の勉強中です。



## 東京都庁のNPO法人係を訪問

2月22日金曜日、東京都庁のNPO法人係を訪ねました。向かうは第一本庁舎19階です。慣れないため随分と時間を要しましたが、担当官に会えた時はホッとしました。

早速名を名乗り、用務の説明です。平成30年度事業報告書案を担当官に提示し、丁寧な説明を頂きました。平成30年度事業報告書のほか、貸借対照表などの財務諸表、年間役員名簿など仔細に見て頂きました。

事前チェックは無事終わり、正式提出の許可を頂くとともに、迅速な提出に謝意を頂きました。

都庁のあと、事業報告書の提示に伴う法人登記の相談業務のため、東京法務局のある「九段下」エリアに向かいました。

最後に、筆者は昭和45年に18歳で、単身、東京に出て以来、大抵の場所には行っているはずですが、都庁を訪れたのは初めてでした。何しろその威容に圧倒されました。因みに、展望台は45階、食堂は32階とのこと。高層階が好きな人には格好の場所かと思えます。



# 「議長国として“国際連帯税”導入へ議論をリードしていきたい」河野外相

河野外務大臣は2月23日、日本青年会議所主催の「JCI（国際青年会議所）金沢会議」へ出席し基調講演を行いました。その内容についてNHKテレビや共同通信が報道していますので、紹介します。



「河野大臣は、ことし日本が開発のための資金調達の方法などについて話し合う国際会議の議長国になったことを紹介し、為替取引など国際的な経済活動に課税して温暖化対策などの財源に充てる『国際連帯税』の導入に向け、議論をリードしていきたいという考えを示しました」。ここでの「国際会議の議長国」とは、国際連帯税など革新的資金調達政策を率先して進めていこうという政府間のグループ、つまり「開発のための革新的資金調達に関するリーディング・グループ」（2006年設立、常設事務局はフランス外務省）の議長国に日本になった、ということです。

ともあれ、青年会議所に参加する全国の青年経営者は、SDGsと為替取引税など国際連帯税の必要性を心底理解してくれたでしょうか。

## 【NHK】河野外相 国連のSDGs達成に中小企業の協力呼びかけ

河野外務大臣は金沢市で講演し、世界の貧困や格差の撲滅などを目指す国連の「SDGs」＝（エスディーゼーズ）「持続可能な開発目標」を達成するためには、政府だけの取り組みでは限界があるとして、中小企業や民間団体に協力を呼びかけました。

この中で河野外務大臣は、世界の貧困や格差の撲滅などを目指す国連の「SDGs」＝「持続可能な開発目標」について「世界中の誰ひとり取り残すことなく発展しようというのがSDGs考え方で、日本が提唱してきた考え方とぴったり合っている。だからこそ、日本がリーダーシップをとる価値がある」と述べました。

そのうえで、日本の中小企業が発展途上国で浄水ビジネスに取り組み現地の雇用も生み出している例などを挙げ、政府だけの取り組みでは限界があるとして、中小企業や民間団体にも協力を呼びかけました。

また、河野大臣は、ことし日本が開発のための資金調達の方法などについて話し合う国際

会議の議長国になったことを紹介し、為替取引など国際的な経済活動に課税して温暖化対策などの財源に充てる「国際連帯税」の導入に向け、議論をリードしていきたいという考えを示しました。

【共同通信】SDGs 実現へ呼び掛け JCI 金沢会議、河野外相が講演

【外務省】河野外務大臣の日本青年会議所主催の「JCI金沢会議」への出席

★写真は、JCI金沢会議のもよう（外務省のHPより）

## ケニアにおける名前の呼び方

日本リザルツはケニアのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトをしています。最終年度の事業が始まり、スタッフ一同精力的に活動をしています。



今日は、新たな日本人スタッフに関して、ケニアならではのやり取りがありましたので、ご紹介させていただきます。

ケニアでは、人の名前が「アブタ」とか「ヒルダ」とかだいたい3文字以内で、それ以上になると省略されます。例えば、カルヴィンはカルボ、ワンジクはシコなどです。

長いと覚えられないし、面倒くさいそうで、なんと、アブタでも「アブー」と省略してしまうほどです。



新たに赴任したスタッフの名前は計6文字.

名前と呼ぶとケニアでは長く、スタッフが言いにくそう&覚えにくそうだったため、筆者は「彼にケニアンネーム（ケニアの名前）を付けてほしい」と依頼しました。

現地スタッフはすぐにひらめきました。「はたの」だから「タノ」だと。タノという意味は数字で5という意味です。これならみんなもすぐ覚えられます。今ではみんなが「タノさん、タノさん」と彼を呼んでいます。タノさんを中心に、3期目の事業がよりインパクトのあるものになることを楽しみにしています。

2019 年 02 月 25 日

# NURSES STRIKE AFFECTS VACCINATION COVERAGE

The situation could be made worse with the ongoing nurses strike, which in 2017 had the immunization level drop to 63 percent due to a protracted five-month boycott.

The recent nurses' strike may again deal another blow, given that most vaccines are administered by nurses countrywide.

“Generally, vaccines have reduced preventable diseases by 70 percent, from the year 2000,” said Health Chief Administrative Secretary Dr. Rashid Aman.

Solving issues of supply of vaccines and health providers can raise the number to 100 percent.

But the industrial strikes seem to be applying brakes on the rollout of the UHC in Kenya. Clear budget allocations for the communal bargain agreements for health workers have led to frequent industrial actions.

The Kenya Medical Practitioners and Dentists Union, a premier medical union in Kenya has called on the national and county government to settle the perennial problems once and for all. This will lead to a faster implementation of health for all, and avoid problems resulting from strikes.



(邦訳)

看護師のストライキは子どものワクチン接種に影響を及ぼす

2017年に行われた5か月にわたるストライキでは、ワクチン接種率が63%まで低下しました。直近の看護師によるストライキでも、同じことが起こる懸念があります。なぜなら、国内のワクチン接種は看護師によって行われているからです。

「ワクチンは予防可能な病気を、2000年から70%減らしました」ケニア保健省の首席保健事務官のラシッド・アマン博士は言いました。供給者からのワクチン配布に関する問題はほぼ100%解決していました。しかし、看護師のストライキは、ケニアのUHC実現に大きな影を落とすことになりました。医療従事者のための交渉合意の予算配分カットがこのストライキを引き起こしました。ケニアで最も大きなケニア医師・歯科医師連合によると、連合は、今回限りでこの問題を永久に解決させるため、ケニア国政府、そして地方政府と話をしています。この話し合いが、ケニアの医療サービス実施をより迅速にし、ストライキ



を解決できることを祈っています。

本当に困っている人たちが医療へアクセスできなくなることはすでに問題となっています。  
早くストライキが解決するといいですね。

2019 年 02 月 26 日

---

## AFRICANS UNION COMMITS TOWARDS UHC

The African leadership forum held in Ethiopia on 9th February 2019 main agenda was to commit investments in the health sector across the continent. It mainly encouraged



partnership in order to grow the health sector. The chairman of Africa Healthcare Federation Dr. Amit N. Thakker deepening private sector engagement should be embraced. He urged the government leaders to continuously have dialogue that will give positive results. President Uhuru Kenyatta acknowledged that investing in health is significant to achieving the social-economic agenda and he emphasized on the need to build partnerships so as to achieve UHC. According to the president, leaders have to create an enabling environment for the private sectors in order to build confidence and attract investments into the health systems. It is more important for African leadership to bring transformational leadership so as to bring hope and opportunities to the people of Africa. Therefore, Africa ministries of health should have frequent meetings so as to share synergies and initiatives with each other. The meeting was essential in enhancing sustainable health outcomes. It was also an important platform to build on public-private dialogue, create awareness and commitments in relation to investments in healthcare in Africa.

This shall lead to a stronger private health sector which will contribute to economic development and goals towards achieving universal health coverage in an affordable way.

(邦訳)

### アフリカ連合のUHCへのコミットメント (約束)

2019 年 2 月 9 日エチオピアにてアフリカ首脳フォーラムが開催され、(アフリカ) 大陸全土で保健分野への投資を約束することを主な議題に話し合われました。

アフリカ保健医療連合議長アミット・N・タッカー（Amit N. Thakker）医師は、深まる民間分野の関りを受け入れ支援していく考えを示しました。また、政府首脳が良い結果を生み出す対話を継続して持ち続けることを促しました。

ウフル・ケニヤッタ（Uhuru Kenyatta）大統領は、社会経済政策を達成するために保健分野への投資が重要なことを認め、UHCの達成ができるようにパートナーシップ構築の必要性を強調しました。大統領によると、信頼関係を築き、保健システムへの投資を引き寄せることにつなげるためには、リーダーたちは民間分野の環境を整備していかなければなりません。アフリカのリーダーシップにより、指導力の構造改革をもたらして、希望と機会がアフリカの人々にもたらされることが重要です。

会議は、持続可能な保健分野の成果を促進するのに必要不可欠です。公共・民間対話の基礎を築き、意識を高め、アフリカの保健医療への投資に関連するコミットメント（約束）につなげる重要なプラットフォームでもあります。

この取り組みは、経済発展への貢献と、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）が求めやすい方法で達成されるという目標にむけて貢献するより強力な民間保健事業者（訳補：参入）につながっていくでしょう。

G20大阪サミットやTICAD 7が日本で開催予定ですが、アフリカ各国首脳もUHCの達成に向けて行動されているとの内容です。日本だけでなく、アフリカの動向にもご関心をお持ちいただければ幸いです。

## 国際連帯税アドバイザー・チームが立ち上がりました！ 金子宏先生も激励

すでに報告された「国際連帯税アドバイザー・チーム第1回会合」（以下、チームと略）の様態ですが、私からも簡単に報告させていただきます。参加者は、国際連帯税議員連盟（以下、議員連盟と略）、国際機関（\*）、財団、学術関係者、NGO・市民団体、企業、労働組合、外務省など各セクターを越えて50人ほどが参加しました。



チームの設立については、昨年11月の議員連盟の総会で決められており、それがようやく実現の運びとなりました。まずチームの役割の第一は議員連盟の活動に対してアドバイス（助言、提言）を行うというものです。が、それにとどまらず様々なセクターの創意を結

集し、国際連帯税を日本で実現していくため、独自活動も射程に入れ活動していくことを目指すことにもなります。実はこの後の議論で、アドバイスは議員連盟だけではなく外務省にも行おうということになりました。

ともあれ、第1回会合の議事ですが、まず議員連盟から、石橋通宏事務局長（参議院議員）が出席し挨拶を行うとともに、チームの役割について、具体的には「趣意書」と「規約」について提案しました。チームの目的は次の通りです（縮めて表記）。

- (1) 国際連帯税の実現に向け、提言、情報発信、世論喚起に尽力すること
- (2) 議連が主催/共催する会議等に参加し、勉強会等での講師を務めること
- (3) 当面チームは、議連のもとに活動し、近い将来議連と連携しつつ独自に活動を展開していくこと

続いて、田中徹二・グローバル連帯税フォーラム代表理事からチームの活動について提案しました。内容は、「シンポジウムや集会への賛同と支援」「事務局設置」「理論・制度部会の設置」です。両提案に対して、それぞれ議論を行い、全体の拍手で承認されました（詳細は、後日報告します）。

続いて、外務省の甲木地球規模課題総括課長が出席し、河野大臣の思いと今後の課題について報告がされました。

この会合のもうひとつの目的として、昨秋文化勲章を受章した金子宏先生からご挨拶をいただくことでした。先生は体調がすぐれないにもかかわらず、みなさんに御礼をということでご出席くださいました。先生の持論である国際人道税誕生の経緯、フランス提唱の連帯税への感想などが述べられ、「今後とも及ばずながら国際連帯税実現に向けみなさんとともにがんばっていききたい」と表明されました。

また、金子先生の朋友ともいえる津島雄二元厚生大臣（議員連盟初代会長）も出席され、ご挨拶されました。実はお二人とも1930年生まれでして、88～89歳というご高齢ですが、国際連帯税実現への思いは強く頭が下がります。

ともあれ、チームはこれで発足しましたので、ご関心のある人はぜひチームにご参加ください。

(\*) 国際機関からはオブザーバーを含み、以下の方々が出席されました。

ユニセフ(UNICEF)、国連開発計画(UNDP)、国際労働機関(ILO)、国連世界食糧計画(WFP)、国連広報センター、国連UNHCR（難民高等弁務官事務所）協会、ユニットエイド(UNITAID：国際医薬品購入ファシリティ)

# STRENGTHENING OF PROJECT ECHO IN KENYA

Since the launch of the Project African ECHO in Namibia in 2015, dozens of countries in Africa have embraced the presence of Project ECHO.

Project ECHO program is a collaborative learning and practice platform dedicated to improving the health care delivering system and it is equipping frontline health care workers to better combat devastating diseases like HIV, Tuberculosis, Cancer, Cholera and Ebola.



In Kenya, Tuberculosis is a high burden disease with 43,000 deaths per year as reported by the Global Fund.

Kenya has adopted three ECHO programs focused on strengthening care and treatment on Multidrug-resistant TB, Pediatric TB, and infection TB.

TB program Kenya has established the use of ECHO project by establishing sites which it can be implemented. All the TB coordinators in the country have also been provided with notepads and Tablets to login in on the ECHO session every Tuesday of the week.

The mapping of a few health centers has been identified and there is a development of installing TVs in hospitals and centers to project the information to health care workers and the clients to get information about the deadliest diseases like TB and Cancer.

The programs all support WHO Global plan to End TB.

(邦訳)

## ケニアにおけるECHOプロジェクトの強化

アフリカ ECHO プロジェクトがナミビアで 2015 年に発足して以来、アフリカの数十か国が関わってきました。

ECHO プロジェクトは学び及び実践のための共同プラットフォームで、ヘルスケアを届けるシステムの向上を目的としています。このプロジェクトにより、HIV、結核、がん、コレラやエボラと言った破壊的な疾病との闘いを有利に進められるような設備や器具が現場の保健従事者にもたらされます。

ケニアは結核により大きな負担を強いられており、グローバルファンドの統計では年間 43,000 人が亡くなっています。



ケニアは、多剤耐性結核や小児結核に対するケアや治療の強化に焦点を当てた3つのECHOプログラムを採用しています。

結核プログラム・ケニアは、実施対象地区を選定し、ECHOプロジェクトを実施した。国中の結核コーディネーターにもまた、毎週火曜日にECHOセッションにログインできるようタブレット端末が配布されました。

いくつかのヘルスセンターの位置も割り出され、病院やヘルスセンターへのテレビの設置も行われており、ヘルスケア従事者や患者に結核やがんといった命に関わる病気についての情報を提供しています。

## ANOTHER SUCCESSFUL TOILET AND SANITATION IMPROVEMENT PROJECT

The Government of Japan has been providing funds to local non-profit organizations through the Grant Assistance for Grassroots Human Security Projects (GGP) since 1989.

This year, Reteti Primary School in Laikipia is one of the few that was selected to receive the grant.

Reteti Primary School is a public primary school established in 2009 starting as an Early Childhood Development Educational Centre (ECDE).

Before the project started the school ran from Class 1 to 4 and had 230 pupils. The pupils shared two semi-permanent and two permanent classrooms with ECDE children. The school had only 12 desks, with pupils sitting on rocks or on the floor.

Their sanitation facilities were inadequate, in a poor state, lacking in privacy and did not meet the Ministry of Education recommended ratio for usage for each gender.

The school had no administration block hence there was no privacy as meetings between parents and teachers, pupils and teachers are held outside.

With the completion of the project, the pupil enrollment has now increased to 380 pupils for Class 1 to 5, over 65% increase in enrolment.

The school now has four new classrooms, an administration block, new and adequate sanitation facilities for boys and girls, classroom and office furniture and a fence around the school.

According to press invitation published on Africanews.com the handover ceremony is



planned to take place on February 26, 2019, in Laikipia county, in attendance during the handover will be Ms. Yui Takashima, Second Secretary of Embassy of Japan in Kenya.

(邦訳)

### もうひとつの成功したトイレと衛生改善事業

日本政府は1989年より、草の根・人間の安全保障無償資金協力（以下、「草の根無償」）事業により地域の非政府機関に対して資金供与を実施してきている。本年、ライキピアのレテティ小学校が草の根無償事業を受ける数校の一つとして選定された。同小学校は、就学前教育センター（ECDE）として2009年に創立した公立小学校である。

本事業開始以前は、1年生から4年生までの230名が就学し、生徒は2つの準常置学級と2つの常置学級とに分かれ、生徒はECDEの子ども達と学校施設を共有している。学校には12個の机があるだけで、生徒たちは床に座るといった状況にあった。

また、学校の衛生施設は不十分で劣悪な状況にあり、プライバシーにも欠けるような状況にあった。これは、教育省の推奨する性別の基準も満たすものではなかった。学校には事務室は無いことから、父兄、教員、生徒との会合も屋外で行われていた。本事業の完了によって、生徒の就学数は現在では1学年から5学年までの380名となり、65%増加となっている。

現在、学校には、4つの新規教室、一つの事務室、新たに十分な男女別衛生設備、学校家具、学校周辺フェンスなどの設備が設置された。

メディアのアフリカニュースによれば、ライキピア地区での譲渡式典は、ライキピア郡では2019年2月26日に予定されており、日本大使館の高嶋2等書記官の出席が予定されている。

## KENYA ON COURSE TO ELIMINATE MALNUTRITION

According to UNFP statistics, malnutrition is unacceptably high in Africa, with 58 million or 36 percent of children under the age of five chronically undernourished (suffering from stunting), and 13 million or 8.5 percent of children acutely undernourished (suffering from wasting).

“Kenya has made significant progress in reducing the prevalence of stunting, underweight

and wasting from 35 percent, 16 per cent and seven per cent in 2009 to 26 per cent, 11 per cent and four per cent in 2014," Health CS Sicily Kariuki said during the launch of the Africa Continent Nutrition scorecard at the 32nd ordinary session of the Assembly of the African Union.

Interventions such as maternal nutrition and education, vitamin and mineral supplementation to mothers and children, private sector involvement and mandatory fortification of wheat and maize flour with multiple micronutrients have led to improved nutrition in Kenya.

Kenya is also providing supplementary and therapeutic foods to the sick in particular those with HIV and the introduction of cash transfers programmes as part of social protection.

This improvement made Kenya be recognized globally as one of the countries on track to achieving World Health Assembly targets for nutrition.

(邦訳)

#### ケニア 栄養不良の根絶の道へ

UNFPの統計によると、アフリカの栄養不良は受け入れがたいくらい高い水準にあり、58百万人・5歳児以下の36%が慢性的に栄養不足（発育阻害）となっています。また、13百万人・子どもたちの8.5%が深刻な栄養不良（消耗症）の状態にあります。

「ケニアは、発育阻害・体重不足・衰弱の割合を2009年の35%・16%・7%から減少させることができ、2014年には26%・11%・4%となり、著しい進展を見せました。」シシリー・カリウキ保健・内閣官房が、アフリカ連合総会の第32回通常会合アフリカ大陸栄養会議の開会に際し、述べました。

母子栄養と教育、ビタミン・ミネラル補助食品の母子への提供、民間分野の連携、小麦粉・トウモロコシ粉と微量栄養素混合による栄養強化などへの介入は、ケニアの栄養状態向上につながっています。

ケニアは補助食品・健康食品の提供を病気の方々、特にHIV保有者に行っています。また、社会保障の意味でも資金送金プログラムの導入にも取り組んでいます。

このケニアでの改善は世界中で認知されており、世界保健総会の栄養目標達成に向けた道のりを正しく踏んでいる国の一つであると解されています。

## 金子宏先生の文化勲章ご受章をお祝いする会 とサンキューセミナー

国際連帯税アドバイザー・チーム第一回会合に続いて、国際連帯税アドバイザー・チームメンバーで、平成30年度文化勲章を受章された東京大学大学院政治学研究科・法学部名誉教授の金子宏先生のご受章をお祝いする会を行いました。金子先生を囲んで、元厚生大臣の津島先生、外務省の甲木課長も加わり、国際連帯税アドバイザー・チームの皆さんで盛大にお祝いを行いました。バック



グラウンドミュージックのヴァイオリン演奏の軽やかな音楽にも耳を傾けながらの心温まる会となりました。そして、会のハイライトとして、参加者の皆さんの思いの言葉でお祝いのメッセージを書きこんだ心のこもる色紙をお渡ししました。手作りの色紙ですが、金子先生も大変喜ばれておられました。

私事になりますが、タクシーまでお送りする際、共に長野県出身であることで「同郷だ」と言われて嬉しかったです。

その後で、国際連帯税アドバイザー・チームメンバー第一回会合への参加者を中心として、恒例の日本リザルツ「サンキュー・セミナー」を開催しました。サンキュー・セミナーでは、金子先生の提唱された「国際人道税」の意義について再認識するとともに、発展途上国における、貧困、感染症、栄養、衛生、環境、医療、難民、労働など多岐に亘る課題と国際連帯税の在り方について、民間企業、国際機関、市民社会、学識経験者などそれぞれの立場から意見交換が行われました。

日頃顔を合わすことが稀な多様な関係者が一堂に介して国際連帯税の在り方について闊達な議論を行うとともに、参加者同士の懇親も深められた大変有意義な会合となりました。



## 国際連帯税アドバイザー・チーム発足

昨日、日本リザルツの会議室において「国際連帯税アドバイザー・チーム第1回会合」が行われました。このアドバイザー・チームは、国際連帯税創設を求める議員連盟の総会において提起があったことを受けて設立されたものです。同議員連盟に対して提言を行うと共に、内外に向けて情報発信して世論に訴えることを目的としています。会合には、議員連盟、外務省、国際機関（UNICEF）、国連開発計画(UNDP)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国際労働機関(ILO)、国連世界食糧計画(WFP)、国連広報センター、ユニットエイドや学術関係者、企業、NGO等様々な分野から50名程が集まり、昨今の国際連帯税に対する気運の高まりを象徴するような、とても熱のこもった議論を繰り広げました。



今回は特に、「国際人道税」の提唱者であり、昨年文化勲章を受章された金子宏先生にご出席いただき、大変貴重なお話をいただくことができました。金子先生の文化勲章受章については日本リザルツのブログでもご紹介しています。

私はあまり会場にいたことができず、少ししかお話を聞くことができませんでしたが、現在録音を聞きながら議事録を作成しているところで、お話をお聞きするのが楽しみです。国際連帯税の創設へ向け、この熱気をさらに増やし、これまで国際連帯税に関心がなかった人なども議論に巻き込んで大きなうねりを作れるよう頑張ります。

2019 年 02 月 27 日

## ナイロビのお天気

日本では雪などがすっかり溶けてしまい、春の訪れが近づいているのでしょうか？  
アジア・太平洋の天気予報には台風が映っていて、少し驚いてしまいました。  
ケニア・ナイロビは、約1,800mの高地にあるため、アフリカは暑そうだという一般的なイメージと異なり、カラっとした気候なので比較的過ごしやすいです。  
ただ、朝晩は摂氏10度程度にまで気温が下がるため、長袖が必要です。一方、昼間は30度近くまであがるため、一日の寒暖差が激しい天気です。  
着任してからは、体が気候に慣れるよう、上着を持ち歩くように心がけています。  
さて、天気予報によると来週ナイロビでは雨が降るようです。  
日本からのゲストをお迎えしますので、いい天気にも恵まれることを願っています。

2019 年 02 月 28 日

## スナノミ症活動応援団の皆様へ GGG+ フォーラム冊子を送付しました！

今日は、日本リザルツのスナノミ症活動に、いつも特別に応援して下さる 170 人の皆様に、「GGG+ フォーラム東京 2018」の冊子を送付させていただきました。ご支援本当に有難うございます。

